

富士市中小企業景況調査結果

令和4年度 第3四半期【令和4年10月～12月】

令和5年1月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率68.5%)を対象に、「令和4年10月～12月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和4年7月～9月 今期…令和4年10月～12月 来期…令和5年1月～3月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲18.9	→	▲21.0 (▲24.7)	→	▲20.6
売上	▲4.0	↗	6.7 (▲13.0)	↘	0.8
採算	▲31.7	→	▲35.1 (▲25.4)	↗	▲28.5

今期調査では、全産業合計の業況DIが-2.1ポイントの悪化、売上DI+10.7ポイントの改善、採算DIが-3.4ポイントの悪化となった。来期の予測について業況DIは横ばい、売上DIは悪化、採算DIは改善の見込みとなった。業種別の来期業況DIは、製造業は上昇、建設業・卸売業・サービス業は横ばい、小売業は下降を予想。売上高DIは小売業・サービス業は上昇、製造業・建設業・卸売業は下降を予想。採算DIは、製造業・建設業・小売業は上昇、卸売業・サービス業は横ばいを予想。

全体を通して、資材等の価格高騰に対するコメントが目立った。また、販売価格への転嫁が難しいとの声も多かった。また、コロナ禍、物価高騰という中でもインボイス制度やDX等の新しい取り組みに対応していかなければならないという声もあった。大手チェーンの新規出店による受注増や、輸出増といった明るい話題もわずかにあった。

経営上の問題点では、5業種とも「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 小売業、サービス業は上昇。製造業は横ばい。建設業、卸売業は下降。

製造業は上昇を予想。建設業、卸売業、サービス業は横ばいを予想。小売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲27.6	→	▲22.9 (▲23.5)	↗	▲17.2
建設業	▲7.2	↘	▲25.9 (▲24.2)	→	▲22.2
卸売業	▲4.4	↘	▲15.4 (▲12.0)	→	▲20.0
小売業	▲23.8	↗	▲16.6 (▲47.6)	↘	▲22.2
サービス業	▲30.8	↗	▲22.2 (▲20.7)	→	▲23.1
全産業	▲18.9	→	▲21.0 (▲24.7)	→	▲20.6

〔売上高のDI〕 製造業、建設業、サービス業は上昇。卸売業は横ばい。小売業は下降。

小売業、サービス業は上昇を予想。製造業、建設業、卸売業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲6.9	↗	5.7 (▲17.6)	↘	▲8.8
建設業	▲10.7	↗	14.3 (▲24.1)	↘	7.1
卸売業	19.1	→	19.3 (12.0)	↘	▲4.0
小売業	▲4.8	↘	▲11.1 (▲38.1)	↗	5.5
サービス業	▲12.0	↗	0.0 (0.0)	↗	7.4
全産業	▲4.0	↗	6.7 (▲13.0)	↘	0.8

〔採算のDI〕 製造業、サービス業は上昇。建設業、卸売業、小売業は下降。

製造業、建設業、小売業は上昇を予想。卸売業、サービス業は横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲46.4	↗	▲37.1 (▲47.0)	↗	▲31.5
建設業	▲35.7	↘	▲46.5 (▲27.6)	↗	▲28.6
卸売業	▲8.7	↘	▲23.1 (▲8.0)	→	▲28.0
小売業	▲23.8	↘	▲38.8 (▲33.4)	↗	▲27.8
サービス業	▲38.5	↗	▲29.6 (▲6.9)	→	▲25.9
全産業	▲31.7	→	▲35.1 (▲25.4)	↗	▲28.5

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…総じて燃料価格の高騰と原料不足を不安視する声が多かった。「対前年同月比で電気料金が59%、ガス料金が82%上昇した。また古紙不足による原料価格の上昇と、その他諸経費の上昇により製紙業界を取り巻く環境は最悪である」「販売価格の再値上げも来年度早々にはしたいと思ひ交渉しているが、経費上昇分をカバーできるだけの値上げ幅とはとても実現できそうもない」「原材料高騰に伴う交渉は、若干だが取引先の理解を得られるようになった。しかし燃料高騰分を100%補えない状況。電気、ガスの高騰は異常であり、この一年で1.5倍以上の負担となっている」「製紙原料の不足や価格の高騰により不安定な操業となっている。古紙は集まらないし、パルプの価格も高止まりになっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「紙製品はSDGsの推進で追い風ムードだったが、急激な物価高騰により紙からプラに戻して、少しでも経費を抑えるという流れが起こっている。日本は欧州と比較して環境意識が低いことを痛感している」「デジタル化、スマホの普及の影響で、家庭紙原料の古紙が激減しており、今後の需給状況に不安がある」「コロナ禍の需要低迷は落ち着き、受注は増加している。燃料費の値上がりは天井が見えない状況であり、顧客との継続的な価格交渉が必要である」「現在の状況と変わらず推移すると思われる」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…総じて原材料価格の高騰を不安視する声が多かった。「中国のロックダウンなどコロナの影響による半導体や部品の調達難で、自動車部品は生産調整を行い受注が減少した。工作機械部品は順調に推移した」「円安の影響で、輸出用の受注は増えているが、刃物代、電気代、燃料代の高騰により、採算は悪化している」「以前から北米の景気が良く、レジャー関係のボート船外機が好調に伸びてきた。今後も増産していくとメーカーも強気である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自動車部品は、半導体不足が徐々に解消され上向きになるだろうが、在庫状況によりもう少し時間は要するだろう。工作機械部品は落ち着き始めた。エネルギー価格や原材料価格の高止まりの懸念材料はある」「価格転嫁が出来ない状況では、利益の改善は見込めない」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…総じて業界の停滞を不安視する声が多かった。「金型業界全般に仕事が減少している。過当競争に陥り、価格競争と物価高騰が相まってどの企業も大変な思いをしている」「自動車業界が昨年より悪化。売上減少の要因となっている」「様々な社会的背景で生産、販売、需要に関して明るい兆しが無い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料の高騰により、売上に対して利益が確保できない」「プラットフォーム変更に伴う金型部品、試作品の受注が減少している」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「先行きが好転しそうな兆しがある。ただ、ガスと電気料金の値上がり、消耗品、材料高騰の影響が不安である」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「半導体不足の影響により、サプライチェーンの企業選別が出てきており、部品調達が困難だ」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…総じて現状を静観する声が多かった。「円安の影響は特に受けていない」「今後の状況は、半導体の状況とコロナ次第と考える」「暫くは平行線をたどると思われる」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「業界内では、原材料仕入価格の上昇、人件費高騰、インボイス制度の導入などを理由に廃業する小規模の企業が出てきた」「輸入原材料の価格上昇が大きく、製品価格の値上げが追いつかない状態。中国、ヨーロッパ、アメリカ等の景気足踏みのため、製品需要も落ちてくるだろう」とのコメントが寄せられた。

『印刷資材・印刷関連』…「用紙の値上げが今年2回あり、来年早々にも予定している為、更なる紙離れが進みそう」「用紙値上げによる紙離れが起きる可能性が高い。一度離れたものは戻ってくる可能性が低いので、厳しい状況が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『食料品』…総じて価格高騰による消費低迷を不安視する声が多かった。「値上げにより消費者の購買意欲は低下している」「燃料費、原材料、人件費などの高騰に対し、即座に値上げができない状況が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後数年はこの状況は続くと思われる」「年末の繁忙期とコロナの行動制限解除により、多少需要が増加すると思われるが、その後の対策が課題」「円安による仕入れ値高騰が大変」とのコメントが寄せられた。

『飲料』…「茶農家が減少して茶畑が荒れ、景観に影響がでる恐れがある」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「地元商店の廃業がより目立つようになった。コロナウイルスの影響で地域行事も3年続けて中止になり、今後再開されるかも不明」「銀行の出金伝票が廃止になり驚いている。デジタル化の波で、今後総じて紙伝票は廃止になっていくだろうと予想する」「微々たるものではあるが電気代の高騰が気になる」「燃料費の高騰は同業者間でも話題に上がっており、不採算に陥っている業者もある」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	11.4	54.3	34.3	▲22.9	上昇
売上高	34.3	37.1	28.6	5.7	下降
採算	8.6	45.7	45.7	▲37.1	上昇

【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』…総じて資材高騰と過当競争を懸念する声が多かった。「コロナ、ウクライナ侵攻等の世界情勢により、あらゆる物価が高騰している。建設業においては、事業計画時と施工時のコストアップの差が埋まらず、工事費の圧縮を余儀なくされている厳しい状況である」「資機材、燃料の高騰が続いており、業界全体で利幅の縮小傾向に改善は見られない。特に、民間受注工事は、値上げ分を価格に転嫁しにくいので深刻である」「原材料価格の高値が続き、需要も伸びない」「受注先の業種によって、好不調のバラツキがかなりある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「社会情勢が不透明で、物価高騰が収束するとは思えない。仕事量も減少し、建設業はしばらく厳しい状況が続くだろう」「ウクライナ問題や円安など改善の見込みがないので、事業採算の取りにくい傾向は続く」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…総じて資材高騰を不安視する声が多かった。「消費税増加による反動減が今でも続いている」「資材の価格高騰により、利益の出にくい状況が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価高騰がいつまで続くのか不安」「ウィズコロナでの生活となっていくことで、様々な経済活動を前向きに取り組める」「今後もしばらく、物価高騰、コロナ不況は続きそうである」とのコメントが寄せられた。

『建設関連』…総じて資材高騰で利益減という声が多かった。「材料の値上がりで利益がほとんど出ない。物価高騰が落ち着くまで利益改善は見込めない」「仕事量が非常に少ない。官公、民間とも少なく非常に厳しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについて

は「材料費の値上げは今後も続く為、利益の少ない状況が続く」「材料費、燃料費が上がるため、経費圧迫している分を販売価格に転嫁するしかない」とのコメントが寄せられた。

『**土木関連**』…「新規の設備投資案件が少なく、各建設会社は採算割れでも受注している状況だ」「大手ドラッグストアの新規出店が多い」「電気・燃料等の大幅な値上げの為、弊社産廃工場では採算が合わない部分もある。土木、解体も先行き不透明である」とのコメントが寄せられた。

『**造園土木**』…「人員不足であり、造園業は年末忙しい」「公共工事の増加に期待したい」とのコメントが寄せられた。

『**設備工事**』…「年度末に仕事はあるが、4月以降が不安」「売上減が続き厳しい状況である」「しばらく景気の回復は見込めない」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「コスモス、杏林堂など、ドラッグストアの出店が目につく」「人員不足が慢性化している」「静岡県東部は、他地域に比べ官民ともに仕事量が減少しており、競争が厳しくなっている」「大型の公共工事が少なく、小規模工事、少額工事が増えている。小規模業者が入札に参入しやすくなるのかもしれないが、売上も利益も伸ばしにくい傾向になっている」「DXの対応の見直しが急務である」「富士市のペイペイキャンペーンは、高齢者にとっても使い始めるきっかけとなり良い取り組みだった。食べとくキャンペーンも今回は市内だけではなく県内なので使い勝手がよい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	3.7	66.7	29.6	▲25.9	横ばい
売上高	39.3	35.7	25.0	14.3	下降
採算	7.1	39.3	53.6	▲46.5	上昇

〔卸売業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『**機械器具**』…総じて仕入値の高騰を不安視する声が多かった。「メーカーからの値上げの通知が頻繁にある」「機械、電気部品の納期は少しずつ改善されているが、未だに1年以上かかる製品もあり苦戦している」「半導体の影響はまだ続いており、生産調整が続く」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「半導体不足、円安の影響は続くと思うが、世間がコロナの不安を払拭し行動制限が緩くなれば経済活動が活発化すると期待する。また、コロナが5類に格下げされることを切に希望する」とのコメントが寄せられた。

『**自動車部品**』…総じて物価高騰による利益減という声が多かった。「半導体の生産が若干回復しつつあり、自動車の生産、中古車市場も若干回復し、整備部品需要も持ち直しつつある。売上も前年の売上に近づいている。9月10月に部品メーカーの値上げがあった。令和5年には、樹脂関連商品、バッテリーで5~10%の値上げとなる。売上が戻っても、賃上げや燃料等の諸経費の値上げで採算が悪く、利益は低下している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「売上は回復しつつあるが、利益の改善は望めないと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…総じて資材高騰や事業の改善に関する声が多かった。「新型コロナ、ウクライナ侵攻、円安など様々な理由が重なり、海外に生産拠点のあるメーカー等では、製品の大幅な値上げが行われた」「木材業界では、ロシアのウクライナ侵攻で、木材が大幅に減少するだろうという予測があり、各社で大量発注が行われた。その結果、現在日本の港に木材が大量に入荷しており、木材価格が大幅に下落している。木材以外の建築資材は高

騰しており、住宅着工は減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「見積依頼はあるが、仕入価格の上昇が止まらない為、余裕をもたせた見積価格を出さなければならない」「メーカーは、製品値上は落ち着くとの見通ししているようだが、令和4年はかつてない程の値上げラッシュだった。販売価格が安定しないことから、消費者の購買意欲が下がっている気がするので、回復には時間がかかるだろう」「令和5年には金利上昇とインフレとの経済予測により、住宅投資を控える傾向で、住宅着工は減少するだろう」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…「ある程度の需要回復は見られるが、物価高騰に対しての販売価格への転嫁が困難である」「一定の景気回復は見込まれるが、コロナ以前に戻ることは難しいと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**紙**』…総じて仕入の高騰を不安視する声が多かった。「令和4年は製紙メーカーの値上げが3回行われ、得意先への説明と了承を得るのに尽力した一年となった。年3回の値上げは異例であった。今後の動向に注視したい」「長引くコロナの影響でイベントが縮小、廃止となっており、急な需要回復は見込めない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナ明けを見越した更なるデジタル化を進め、新しい商品を提案していく必要がある」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…総じて製紙原料の減少を不安視する声が多かった。「ペーパーレス化により資源の減少が続いており、業者間での取り合いで適正利益が確保できない分野が出てきている」「新聞を中心に、製紙原料の減少が著しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「事業内容の見直しによる利益の分散化を防ぎ、減収増益に変更することで企業存続につなげなければならない」「業務用トイレットペーパーは、年末の人流により需要が増すことを期待する」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…「世界経済の減速を背景に、鋼材需要、粗鋼生産量がともに減少傾向となった。原料の鉄スクラップ需要が低調となったため、海外市場の鉄スクラップ相場が大幅な値上がりを見せた。この影響は日本産鉄スクラップの輸出市場に波及し、輸出価格が続落した。こうした海外や輸出市場の動向を受けて、国内相場は下落基調に転じることとなった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「米国の金利上げが為替相場に作用し商品単価につながる。ウクライナ問題が落ち着き、原材料の流通拡大で低価格化に振れる」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…「製紙業界は古紙入手難による生産調整が続いており、使用薬品の減少が続いている」「値上げが止まらず厳しい状況である」「家庭紙業界は燃料、資材高騰が続き業況厳しいであり、工業薬品もその影響を受けている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当面は古紙入手難が続く、製紙の生産調整は続くだろう」「年明けから4月にかけて連続して価格改訂の案内があり、先行き不安である」とのコメントが寄せられた。

『**食品**』…総じて仕入れ値高騰に対して、店頭での販売価格での浸透が鈍いという声が多かった。「物価の値上げが販売価格へ浸透するか微妙な状況。やはり大手企業、メーカーの大型店に対する値上げ浸透が鈍い」「原料、資材、エネルギーの高騰により事業環境が厳しい状況が続いている。業界内での廃業も増えると思われる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「値上げが浸透するかできないかがポイント」「翌年以降も米の価格上昇が見込まれるが、価格転嫁が困難な状況が続く見通し」とのコメントが寄せられた。

『**包装資材**』…「令和4年はポリエチレンフィルム（おしぼり関係）印刷は多少増加した。販売価格を上げた分、売上は伸びた。令和5年も、公共料金の値上げなどで厳しい状況が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『**事業協同組合**』…「しらす不漁により売上減、資材や軽油販売の売上減、氷の需要減などさまざまな部門で影響を及ぼした。冷凍庫の保管量も減少する中、電気代の高騰が経営

を圧迫している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「しらすの漁況しだいとなってくる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「令和5年春以降、コロナ借入金の返済が始まり、家庭紙業界は厳しいと見込まれる」「製紙原料においては、社会構造の急激な変化で、製紙工場の稼働率が減少し、資材価格の高騰が製品価格に転嫁できず苦悩している」「大手の中古車販売、車検整備の業者が2社進出している。今後EV・HV車の進出、またはカーボンニュートラルの時代に対応しきれぬかどうか課題になると思うが、地域としての自動車市場は回復の方向に進んでいくと思われる」「富士市が観光、商業、工業等の通過点になっているので、市内に留める政策をしてほしい」「静岡県中小企業者等物価高騰緊急対策事業費補助金を申請しようとしたが、システム障害で当日の申請ができなかった。補助金は大変ありがたいが、募集の方法に問題があったと思う。納得のいく形で再開してくれるのを期待している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	19.2	46.2	34.6	▲15.4	横ばい
売上高	38.5	42.3	19.2	19.3	下降
採算	23.1	30.8	46.2	▲23.1	横ばい

【小売業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…総じて原材料高騰を商品に転嫁できないことを不安視する声が多かった。「仕入れ値が高騰している」「相場が去年より上昇。包装資材関係も値上げが続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「値上げに顧客が応じてくれるか不安」「仕入れ値高騰分をどこまで販売価格に転嫁できるかがポイントとなってくる」とのコメントが寄せられた。

『食料・飲料』…「静岡県内の茶生産については、まだ過剰状態が続く。ドリンク用は安定しているが、家庭内消費や贈答用としての茶葉販売は、引き続き伸び悩む傾向。昭和期の繁盛していた頃の経験では全く歯が立たない。現状を受け入れ、改善に取り組む企業しか生き残れない。日本茶の商品価値が確かなものであることは間違いなく、ニーズはある。顧客の細かなご要望に応えられるかがビジネスチャンスに繋がると認識している」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「処方箋受付はドラッグストア進出による低迷が予想される。長期的には人口減による処方箋発行減が予測される」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「テレビ離れが進む中、インターネットテレビ番組や見逃し配信機能が進化しており、対応する新型テレビの需要を期待したい」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「生産調整や、出荷控えで市場に商品が出回らない。頼りの輸入品は円安で高値になってしまっている」とのコメントも寄せられた。

『日用品・雑貨』…総じて物価高騰を不安視する声が聞かれた。「令和4年度はかつてないペースで少子化が進んでいると聞いた。子供だけを対象にした商品で商売をしていたのでは先は見えていないと感じている」「コロナ発生から約3年が経過し、その間に景気も売上も徐々に衰退している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「やや明るい」「コロナが収束し、来客数と売上が元に戻ることを期待」とのコメントが寄せられた。

『自動車・部品』…「コロナ禍で、自動車整備業界では総整備売上高と総在庫台数が低下しており、景況感も一段と悪化している」とのコメントが寄せられた。

『**自転車**』…「自転車の値上げが止まらない。それに伴う、中古自転車の需要が増え、新車の売り上げが低迷。来期は繁忙期なので、売り上げは伸びると思うが、前期と比べてどうなるかは不明」とのコメントが寄せられた。

『**衣料品**』…「物価高騰により衣類需要は減少している。10月より値上げ幅が大きい、それを全て販売価格には上乗せできない為、利益が減少している」「冠婚葬祭が簡素になり、イベントが少なく、需要が大幅に減少して業界全域が苦境」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「明るい兆しが見えない」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「全国旅行支援の地域クーポンのおかげで、11月は店舗での売上がコロナ前の水準に近い値まで回復し大変ありがたかった。今後は円安を背景に確実にインバウンド需要は戻ると考えている。その時に向けて準備を進めたい」「中心市街地の空洞化による消費の低迷を感じる」「コロナ第8波によりテイクアウトが増加」「商店街に出店者が増えてきている様子だ」「富士市が進める富士のほうじ茶事業がお陰様で、良い影響が出ている。単価は低い回転が良いので、さらなる日本茶の魅力を発信していきたい」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	16.7	50.5	33.3	▲16.6	下降
売上高	27.8	33.3	38.9	▲11.1	上昇
採算	5.6	50.0	44.4	▲38.8	上昇

〔サービス業〕 景気ムード…【低調】

『**クリーニング**』…「新型コロナに対しての除菌抗菌商品の需要がまだ続いている。規制が緩む事で業況が好転している。資材、原料、ユーティリティの価格上昇が続くことで利益減少を招いている。この状況はまだ続くと思われる」とのコメントが寄せられた。

『**運輸・倉庫**』…「ロシアのウクライナ侵攻が終結するまでは、燃料価格高騰は続くと思われる。先が読めない状況である」とのコメントが寄せられた。

『**不動産**』…総じて消費行動へのブレーキを不安視する声が多かった。「宅地造成分譲地の造成工事費の高騰につき販売利益が減少傾向にある。売買の仲介業務の件数は増加傾向にある」「土地を処分したいという申込は増加しているが、販売が伸びないと対応はできない。業界全体として悪化しているイメージである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「不動産の需要低迷は続く」「厳しくなると予想する。アメリカの動向を気にしてその影響がでると考えられる」とのコメントが寄せられた。

『**求人広告・広告デザイン**』…「市場の人材不足は継続しているが、求人業界の過当競争が激化しており、求人媒体単価も低下している状況。売上確保が困難な状態が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「物価の上昇に歯止めがかからない為、経費を節減する中小企業が多く、当社の受注に悪影響が続く」「人手不足、求人の低迷は更に進行していくと考えられる」とのコメントが寄せられた。

『**専門サービス**』…総じて労働力の確保を不安視する声が多かった。「取引先の営業自粛等の影響により業績が悪化。レジャー、イベント関係の落ち込みが生じ、大きく減収した」「過当競争が続いている」「コロナの影響で、顧問先も苦戦している事業所が多い。今後、コロナ融資の返済が始まり倒産、廃業する事業所が出てくると思われる。インボイス対応、電子帳簿法に振り回されている」「顧問先の廃業等で取引件数は減る可能性がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「プラス要因は特にないが、減収ペースがやや改善しており、今期10~12月頃は前期と比較し大きなマイナスポイントはないと考える」「円安が改善されても、物価高騰は止まらず資材不足も重なり厳しい状況が続くと思わ

れる」「士業経営も厳しいが、優れた人材がいる事務所が重宝される可能性があり、チャンスもあると思う」とのコメントが寄せられた。

『**飲食**』…総じて労働力の確保を不安視する声が多かった。「飲食業界はコロナ前ほどの客足が戻っていないので、売上も減少のままである」「行動制限はなくなったが、まだまだコロナ前の客足は戻ってない。12月に入り、特に平日夜の売上が伸びない。とても年末とは思えない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コロナ感染者はまだ減少していないが、経済活動はコロナ前と同等に戻ってきたので、その波に乗れるようにしていきたい」「昨年よりは上向くと思うが、まだコロナ前の売上には届かない。イベント開催も期待している」とのコメントが寄せられた。

『**運輸・倉庫**』…「ロシアのウクライナ侵攻が終結するまでは、燃料価格高騰は続くと思われる。先が読めない状況である」とのコメントが寄せられた。

『**旅行業・ホテル旅館**』…「観光業においては色々な所が緩和され、少しずつだけれども動きは見える。しかし、旅行の個人化が進み、旅行形態が小規模化し利益に結び付けるにはとても大変である」「コロナも安定しており、宿泊業も回復傾向。販管費も上がっているが、販売価格に転嫁しにくい状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「段階をみて値上げをしていく状況」とのコメントが寄せられた。

『**葬祭業**』…「葬儀備品の多くは輸入品であり、その多くが値上げされている。代表的な棺は、去年より30%も値上がりした。今後も更なる値上げが予想される。他のサービス業同様に原価値上げ分を販売価格にいかにか転嫁するかが経営課題となる」とのコメントが寄せられた。

『**自動車**』…「原油高騰により経営を圧迫。新型コロナ及びインフルエンザの蔓延により、需要減少に繋がらないか心配である。景気が回復し、経済が活発になる事を願う」とのコメントが寄せられた。

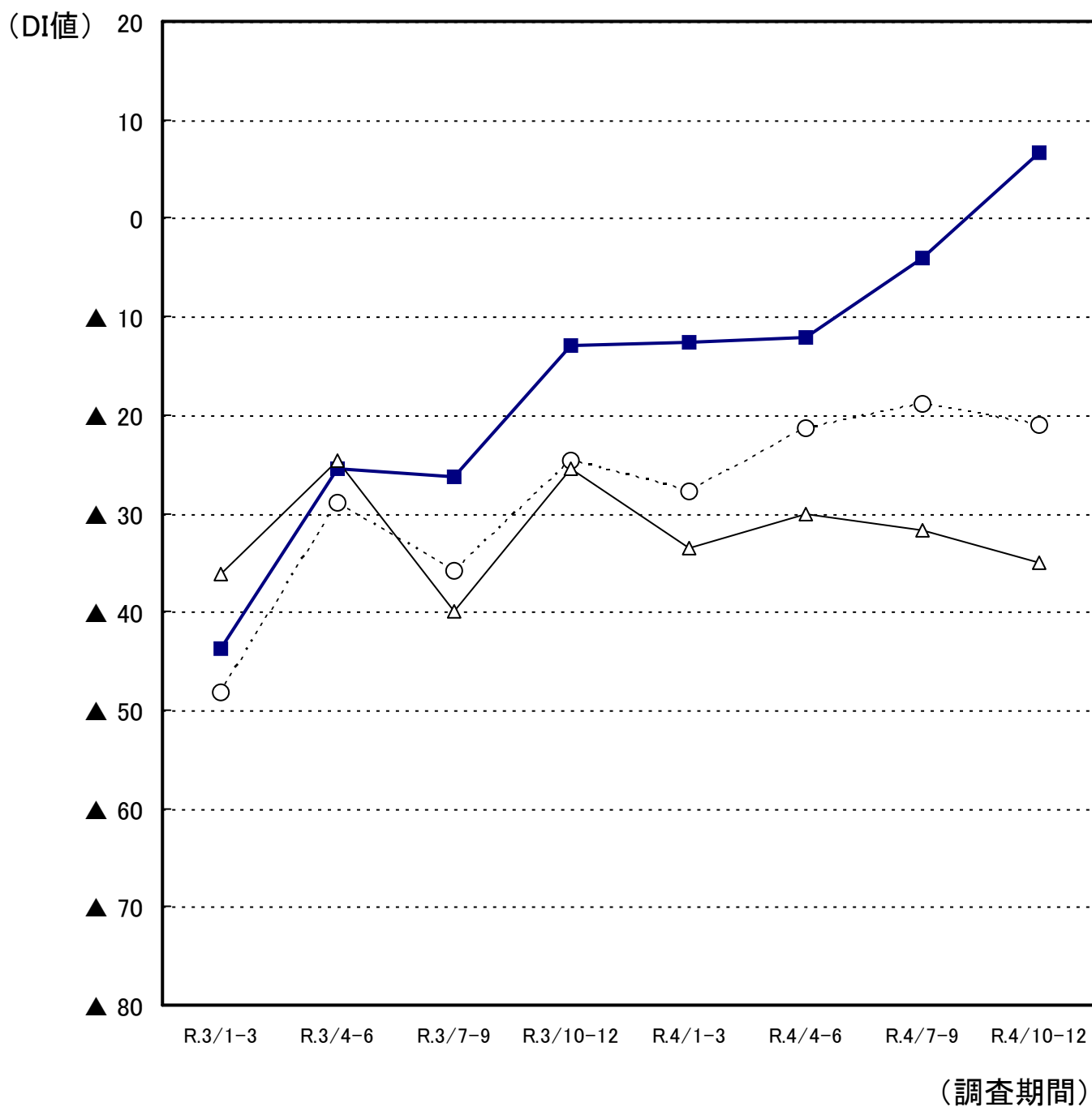
『**各種学校**』…「コロナ禍という、ピンチをチャンスに変えることができた学校とそうではない学校が完全に二分されたように思える。しっかりとニーズを捉えた戦略と明確なブランディングをしていくことで、お客様の獲得をはかりたい」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「岳南電車のお話が多く、観光を地域にどう広げていくか関心の現われのように感じる。先日の地方鉄道サミットも一定の効果を感じている。コロナ禍の厳しい状況にあって明るい話題の一つである」「元々は地元業者のみの市場に、県外大手が出店攻勢をかけて価格の過当競争となってきた。弊社はそれなりに対策できているつもりだが、市内同業者を見ると県外大手の出店攻勢やWeb集客に押されている感がある。数年後には、富士市の冠婚葬祭業者の再編が起こる可能性もある」「近隣で小規模の葬祭場が新設され、他の地区でも同様の傾向が感じられる」「就業人口の減少が、より顕著にみられると考える。」とのコメントが寄せられた。

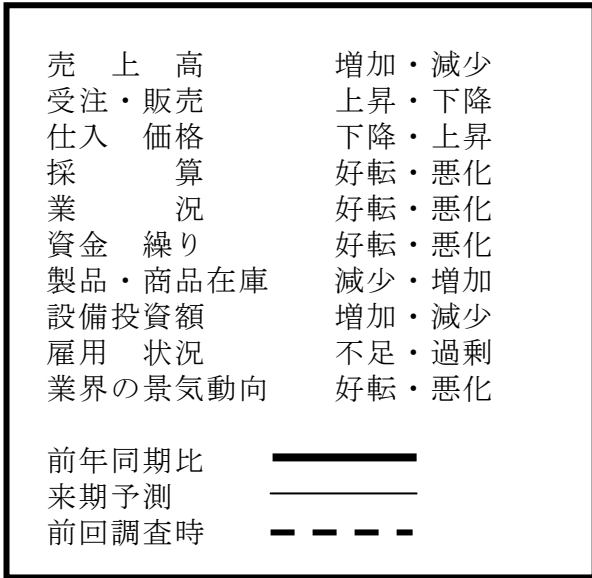
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	14.8	48.1	37.0	▲22.2	横ばい
売上高	29.6	40.7	29.6	0.0	上昇
採算	11.1	48.1	40.7	▲29.6	横ばい

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

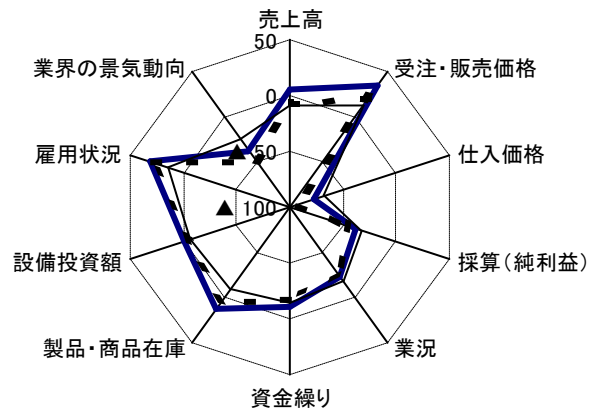
■売上 ○業況 △採算



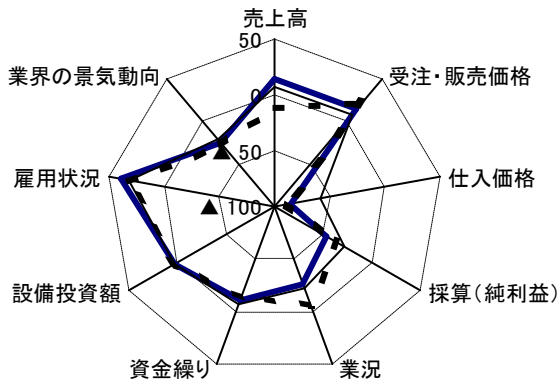
レーダーチャート



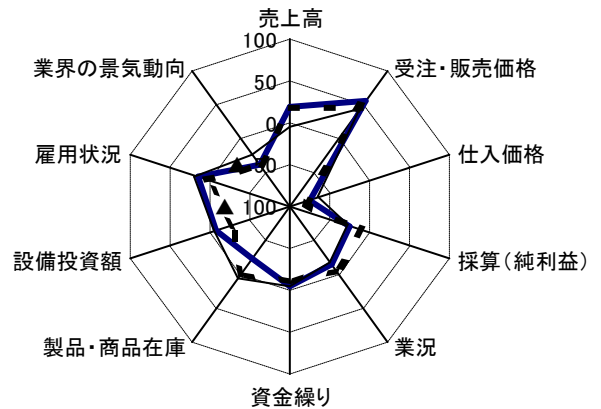
【製造業】



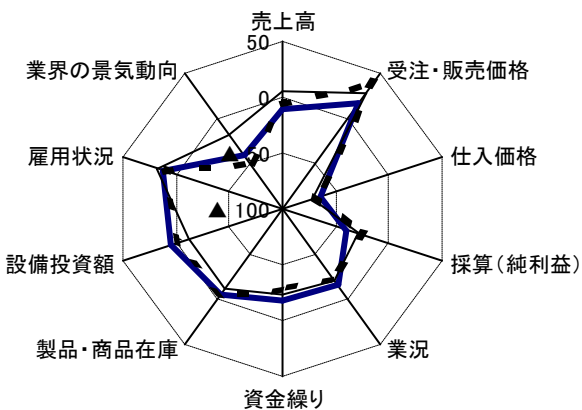
【建設業】



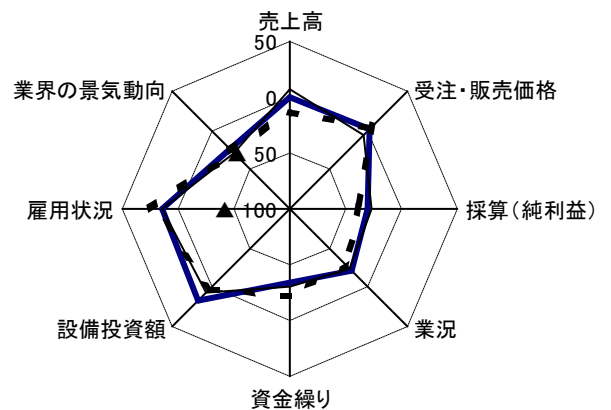
【卸売業】



【小売業】



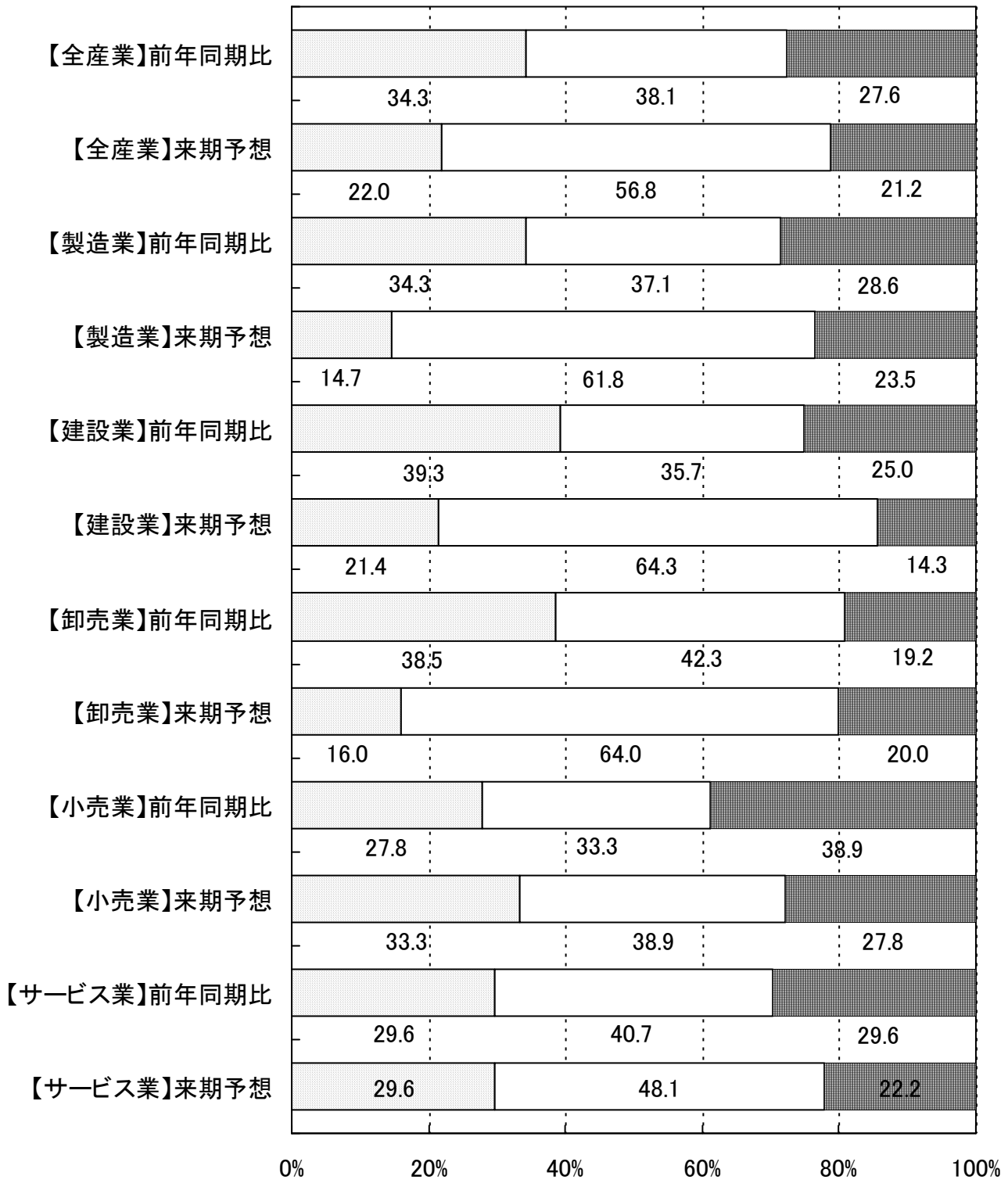
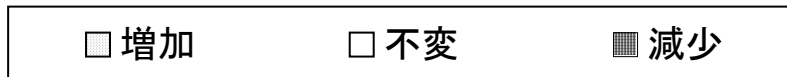
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 人材不足</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足</p> <p>2 位 過当競争</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減／人員不足／設備老朽化</p> <p>その他 官公需停滞／販売価格値上げ難</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 販売価格値上げ難</p> <p>3 位 過当競争</p> <p>その他 その他の需要の低迷／その他の経費増大／人材不足／設備老朽化</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 その他の需要の低迷</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
サービス業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減／人材不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難／人件費高騰／売上、利益減による資金圧迫</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2022年12月14日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（概況）県内の景気は、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けつつも、基調としては持ち直している。

この間、22/12月短観をみると、企業の業況感は幾分改善している。

最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。個人消費と設備投資は持ち直している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。

こうしたもとで、企業の生産は、供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。雇用・所得環境をみると、労働需給は改善傾向にあるほか、雇用者所得はなお弱さがあるものの、緩やかに改善しつつある。

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 感染者数が高水準で推移する中でも持ち直している。

百貨店・スーパー売上高は、持ち直している。新車登録台数・販売台数は、供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。コンビニエンスストア売上高は、持ち直している。家電販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア売上高は、増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、一部に弱さがあるものの、持ち直している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：22/10月▲16.2% → 11月18.6%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 持ち直している。
（短観・設備投資額：21年度計画1.9% → 22度計画20.2%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 横ばい圏内の動きとなっている。
（新設住宅着工戸数前年比：22/9月▲4.6% → 22/10月21.1%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（輸出額前年比：22/9月1.3% → 22/10月28.4% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

- (1) 生産(前回からの変化) → 供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。
(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：22/8月5.4%⇒9月▲1.5%<速報値>)

自動車・同部品は、供給制約の影響を残しつつも、幾分持ち直している。二輪車・同部品は、緩やかに増加している。食料品は、弱めの動きとなっているほか、電気機械は、持ち直している。化学は、幾分持ち直している。はん用・生産用・業務用機械は、緩やかに増加している。紙・パルプは、一部に弱さがあるものの、持ち直しており、楽器は、持ち直している。

- (2) 雇用・所得(前回からの変化) → 労働需給：改善傾向にある。(→)
雇用者所得：なお弱さがあるものの、緩やかに改善しつつある。(→)
(有効求人倍率 季節調整値：22/9月1.33倍⇒22/10月1.32倍)

- (3) 物 価 前年を上回っている。
(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比22/9月3.3%⇒10月3.8%)

3. 企業倒産、金融面の動向

- (1) 企業倒産 . . . 総じて落ち着いている。
(22/11月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(14件<前年比：▲26.3%>)
負債総額(141億円<同：1,088.7%>)
- (2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：22/9月末+1.0%⇒22/10月末+1.8%)
- (3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比：22/9月末▲0.0%⇒22/10月末▲0.2%)
- (4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比低下している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：22/9月1.319%⇒22/10月1.316%)

以 上